2 学童期

低学年では、幼児期のように遊びの中で、ことばのなめらかな話し方の促進を図ります。中・高学年で吃音が重くなっている場合は、直接的な言語指導を導入します。言語指導では、緊張を伴わない楽な話し方の習慣や、安心してのびのびと話せることを目的とします。指導を成功させるためには、家庭、学校、指導者が連携をしていくことが必要です。

3 青年・成人期

この時期になると、心理的な症状も深刻になるので、本人と十分話し合い、吃音に対する考え方を変化させ、また、コミュニケーションに対する態度を前向きに持っていくように働きかけます。なお、ことばの症状については、これらのかかわりや言語指導を根気強く行うことで、徐々に軽くなっていくことが多いようです。また、「言友会」という吃音を持つ仲間の会に参加し、交流をする事で、問題解決の糸口が見つかることも少なくありません。

家庭ではどのようなことに気を付けたら良いでしょうか?

吃音は、出来るだけ早い時期に専門的な指導を開始すると、良くなりやすいといわれています。ことばの症状が気になる場合は、一度言語聴覚士のいる専門機関へ受診されることをお勧めします。

日常生活の場面では、お子さんの話を「ゆったり」と聞いてあげるようにして、お子さんが落ち着いて話せるようにしましょう。「ゆっくりとお話してごらん」「はっきりとお話してごらん」などのことばかけは、かえってお子さんの話すときの緊張を高めてしまう場合が多いので、あまりおすすめできません。また、お子さんに対して矢継ぎばやに質問をすることも緊張を高めてしまう場合があります。

学童期にあがり、本人が自分の吃音を気にするようになれば、吃音の話題を避けずに、出来るだけフランクに吃音の話が出来るようにすることが大切です。

お問い合わせは…

公益社団法人 石川県言語聴覚士会 事務局 総務部

〒926-0816　石川県七尾市藤橋町ア部6番地4
公立能登総合病院
リハビリテーション部内

E-mail　info@st-ishikawa.com
H　P　https://st-ishikawa.com

〈2024年7月発行〉

言語聴覚障害シリーズ5

吃音（きつおん）

公益社団法人 石川県言語聴覚士会

吃音とは

話す際に、なめらかにことばが出てこない状態を言います。かつては「どもり」と呼ばれていました。しかし、「どもり」ということばは、差別的な意味合いが強いために、現在では公式の場で使われることはありません。吃音は、その多くが幼児の時に発生し、成人にまで問題が残る方は、全人口の約1%を占めると言われています。吃音の特徴を簡単にまとめると以下のようになります。

ことばの症状

- **語や音を繰り返す**
  例）「わ、わ、わたしは」
- **音を引き伸ばす**
  例）「わーーーたしは」
- **音がつまって出てこない**
  例）「・・・たしは」

※以上のことばの症状に加えて、体の一部が動く（手や頭を振る、目をパチパチする）こともあります。

心理面の症状

- **吃(ども)ることを事前に予測し、不安や恐怖を感じる。**
- **話しにくい話や場面に恐怖を感じ、避けようとする。**

ことばの症状

◉繰り返し

◉ひきのばし

◉音がつまる

吃音の原因は

これまでさまざまな観点から吃音の原因に対する研究が行われていますが、残念ながら、吃音の原因はまだよくわかっていません。

吃音は治りますか

子どもの場合、適切な指導により吃音がなくなっていく可能性は十分あります。青少年・成人の場合は、吃音を完全に取り除くことは難しいかもしれませんが、心理面も含めて症状を軽くすることは十分可能です。

どのような指導を行いますか

一般的には、以下にあげるような指導をします。

1 幼児期

幼児期には一過性に非流暢な話し方をするお子さんが多く見られます。ですので、その非流暢さが本当に吃音かどうかを見分けることから始めます。吃音だとわかれば、「環境調整」（周りの人の接し方）と「ことばの流暢さ」（なめらかな話し方）を促進することを目的に、遊びの中で指導を行います。